

第1926回埼玉県教育委員会定例会議

- 1 日 時 令和4年3月10日(木) 午前10時開会
午前10時44分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 高田教育長、遠藤教育長職務代理者、石川委員、戸所委員、坂東委員、小林委員、萩原副教育長、佐藤教育総務部長、日吉県立学校部長、石井市町村支援部長、衛藤文化資源課長、渡辺義務教育指導課長、臼倉県立学校人事課長、阿部小中学校人事課長
栗原書記長、岩崎書記、原口書記、星野書記
- 4 会議の主宰者 高田教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 高田教育長が、遠藤教育長職務代理者を議事録の署名者に指名した。
- (2) 議事
- 第13号議案 令和3年度埼玉県指定文化財の指定について 上程
衛藤文化資源課長(提案理由、新たに埼玉県指定文化財に指定するもの、指定の年月日について説明)
- 全出席委員異議なく本案原案どおり可決
- (3) 報告事項
- 情報活用能力育成推進事業の取組について
渡辺義務教育指導課長(提出理由、背景、情報活用能力育成推進事業の概要、事業内容、取組の成果、今後の方向性について説明)
- 戸所委員 情報活用能力の育成は、主役は生徒ですが、今回の資料の内容は教える側の目線からほとんどで、主役である生徒の反応や意見などの記述があり

ません。今までの2年間の取組の中で、生徒にとってどのようなことが楽しかったのか、難しかったのか、生徒側からの意見を教えてください。

渡辺義務教育指導課長 委員お話のとおり、今回の資料の目線は、どちらかというと先生や市町村教育委員会の意見から成り立っています。今回の資料には載せていませんが、実際に生徒にアンケートを実施しており、こういった活動を通じて主体的・対話的で深い学びができるようになったとの声がありました。また、5ページで実際の授業例を幾つか挙げていますが、体育の授業で見本となるバッティングフォームの動画を確認し、自分と見比べた上で自分のフォームを改善の参考にするなどが行われています。

戸所委員 プラスの面、非常に良くできているところはあると思います。この2年間の方向性はいいことですが、新しい事業でもあるため、生徒側の目線で2年間の中で上手くいっていない部分があると思うのですが、そのことに関して教えてください。

渡辺義務教育指導課長 生徒側の課題に関しては、GIGAスクール構想が大幅に前倒しされ、令和3年の3月に県内の小中学校に一人一台パソコンが整備されました。そのため、パソコンを整備すると同時にどのようにICT機器を活用してどのように情報活用能力を上げていくのが課題であると認識しております。

戸所委員 情報活用能力は大切であり、小・中学校9年間を見通して育成することはいいことだと思いますが、実際に2年間の取組を行った中で、現場では様々な課題や問題が出てきていると思います。それをしっかり吸い上げていかないと、せっかく良い計画で実施しても、終わってみたら余り効果が出なかったと、なってほしくないため質問しました。

渡辺義務教育指導課長 11、12ページで示した9年間を見通した目標リストや年間指導計画は、今年度から実施しています。今後は目標リストを更新し、さらに子供たちの実際の声を聴きながら、授業の中で情報活用能力を育成しつつ、改善していきたいと考えております。

戸所委員 目標リストの中でも教えている側の立場からの目線でしか書かれてい

ないので主役である生徒の反応や意見を必ず入れていただき、今後の取組を定期的に報告するようお願いします。

遠藤教育長職務代理者 ICT教育によりいろいろなことが考えられるようになりました。地域性、学校性を考慮したカリキュラムの組立やこれまでとは違った形の融合カリキュラムや関連カリキュラム、海外との交流のカリキュラムを9年間の中で行っていくことが考えられます。一つの科目だけにこだわらなくても、いろいろなことが学べることになり、可能性が広がることが多くあると思います。しかし、あまりにも可能性が広がることで、もしかしたら子供たちの間の格差が大きくなってしまのおそれがあります。格差を作らないために全体の質の向上を目指すICTの活用が最終的な目標になると思いますが、そのための研究をどのようにやっていくのか、とても複雑です。例えば、小学校で英語の授業を行っており、アメリカの授業を共有できるかもしれませんが、しかし、先生の英語力によって子供たちに格差が出てしまいます。様々な問題を含めて、時間がかかるのかもしれませんが、しっかりと話し合っていないと期待された効果が出ないのではないかと心配しています。そのことに関してはどうのように考えているのでしょうか。

渡辺義務教育指導課長 一人一台のパソコンが整備された結果、教育の面での可能性が広がったと同時に活用方法によって格差が生じるおそれがあることは委員お話のとおりだと思います。そのため、子供たちの格差を作らないためにも、今回報告した事業やICTの研修による教員の資質の向上を行い、また、良い事例を横展開して、子供たちに差が生まれないようにしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

石川委員 飯能市立奥武蔵小学校・中学校を学校訪問させていただきましたが、最先端の授業を見てすばらしいと感じました。しかしコロナウイルス感染症の影響で令和5年度までに一人一台のパソコンを整備するGIGAスクール構想の前倒しによって、あっという間に一人一台のパソコンが整備され、現実の方が先に来てしまったと感じました。飯能市立奥武蔵小・中学校で確認された課題があると思いますが、全小・中学校で一人一台のパソコンが整備された結果、

様々な課題が更に確認されたと思います。そのため、今回のモデル事業との整合性はどうか考えているのでしょうか。

渡辺義務教育指導課長 委員お話のとおり、実際にこの事業を行うタイミングよりもGIGAスクール構想の大幅な前倒しにより、整備が先行し、活用リストを使う前にICT端末を使用しなければいけない状況となりました。今回の事業で行われたICT機器の基本操作や情報モラル、プログラミングのような発展的な内容について、今月中にはホームページに掲載し、様々な機会でもしっかりと取組を周知していきたいと考えています。

高田教育長 私も石川委員と一緒に飯能市立奥武蔵小学校・中学校を視察しました。飯能市は一早くICTを活用した教育に率先して取り組んでいて、これからはこういう風になっていくのかとの印象を受けながら、授業を見させていただきました。コロナウイルス感染症の影響によりGIGAスクール構想が前倒しされ、急速に一人一台のパソコンの環境が整いました。本来であれば、ICTを活用した教育を順次導入するに当たって、9年間を見通したカリキュラムをどういった点に留意し、格差を生まないように構想しながら、進めていく予定でありました。しかし、コロナウイルス感染症の影響によりパソコンの整備が早まり、まずは学習保障のためとにかくパソコンを使用させ、家で勉強させることが目的化してしまいました。情報活用能力とはどういうことか、パソコンを使用していじめが起きてしまった報道もありましたが、情報モラルの問題、さらにパソコンを使用することによる子供たちの視力や姿勢などによる健康面の影響、各家庭の通信環境の差異など様々なことを考慮し、総合的に進めていかなくてはならないと考えています。少し落ち着いた状況の中で、本来どうあるべきか、基本に立ち返り子供たちや学校の声を拾いながら、県全体の考え方を構築し、情報活用能力の育成に努めていきたいと考えていますので、今後も定期的に御報告させていただきたいと考えています。

(4) 次回委員会の開催予定について

3月23日(水) 午前10時

<非公開会議結果>

第14号議案 退職手当の支払について

元県立高等学校の男性教諭の退職手当について、支払を差し止める処分を行うことを決定しました。

第15号議案 教職員の人事について

令和4年度当初埼玉県立学校の校長の人事異動を決定しました。

第16号議案 教職員の人事について

令和4年度当初埼玉県公立小・中学校等の校長の人事異動を決定しました